

# ダイバーショナルセラピー&レクリエーション報告

対象者： A 様

報告者：阿部 沙笑妃

所属：特定非営利活動法人 耕房 耕房“光”

実践日（期間）ものづくりの会（2024年5月）休憩時間を活用した活動（2024年5月から週2回程度 12:30～12:45）

注目したニーズ・要望	目指すゴール／期待される成果と結果
① やりたいことにチャレンジしたい	① 目指すゴール 休憩時間を楽しく過ごし、通所する楽しみを見つけ、自ら何かをやりたいという気持ちが言えるようになる。
② 休憩時間を楽しく過ごしたい	② 期待される成果 活動意欲が高まり、事業所へ通う楽しみが増える。
③ 自分の気持ちを上手に話せるようになりたい	自分でやりたいことが言えるようになる。 ③ 結果 休憩時間を楽しく過ごせるようになった。

プログラム実践内容	
<b>&lt;プログラムの名称&gt;</b> ・ものづくりの会（レジンアート作りと豚汁作り） ・休憩時間を活用した活動（レジンアート作り、植物栽培、エクササイズ）	<b>&lt;ここがDT！（気を配った点・ねらい）&gt;</b> 「楽しむ」ことを意識し、職員も一緒に楽しみながら活動に参加をした。気軽に、低価格でできる活動を提供した。
<b>&lt;実施スケジュール&gt;</b> <b>【準備】</b> <レジンアート作り、豚汁作り> ・メンバー全員へ活動希望アンケートを取り、アンケートの集計結果の発表と、活動の希望の聞き取り、今年度の月ごとのレクリエーションや活動を決めるミーティング実施。 ・職員間で、メンバーが希望する生活や活動に近づくための活動を検討。 ・事業所の活動展開を考えたうえで、多くのメンバーが楽しめる活動を企画。 ・レジンアート作り、豚汁作りを企画し、職員で役割分担の確認や当日の流れの確認を行う。 ・必要資材の購入	<b>&lt;実施した人と準備したもの&gt;</b> <レジンアート作り・豚汁作り> 職員：4名 レジンアート作り2名、豚汁作り2名 アンケートの準備と集計、レクリエーション活動の企画と運営。当日の段取りの確認。 利用者： 職員と一緒に必要資材の購入。 レジンアートに必要な、植物や小物を寄付してくれる。

### 【当日】

- ・メンバーに対し、会の趣旨についての説明。
- ・レジンアート作りと豚汁作りのグループに分かれ、活動を実施。レジンアート、豚汁作りが一段落したところで、別のグループに入ってもらい、どちらの活動にも参加できるように促す。
- ・会を楽しめているか、困っていないかなど気持ちを聞きながら会を進める。
- ・皆で片づけを行う。

### 【終了後】

- ・レクリエーション中や参加後に感想を聞く。また、今後どのような活動をしていきたいかを聞く。
- ・職員間で振り返りを行う。
- ・レジンアートについては昼休みを活用し、継続して実施していきたいとメンバーより希望があったため、昼休みの時間を活用し、活動を行っていくことを職員間で決定する。



### ＜報告者・実践者の意図・想い＞

Aさんは事業所に週4日安定して通えており、事業所で行っている、内職作業や行事、レクリエーションはどの活動も楽しめているよう。だが、休憩時間は特にやることなく、時間を持て余している状況。また、休日の過ごし方も限られており、日常生活の余暇活動に物足りなさを感じているように思う。

個別支援計画にはやりたいことにチャレンジをしたいという目標があるが、自分で新しく、楽しみや趣味を見つけることに難しさがあり、自分から挑戦したいことを見つけることできていない状況。また自分の気持ちを上手に話すことに難しさがあり、嫌なことやストレスを感じたことを自分の言葉で話すことを苦手としている。ストレスを感じてしまうと、上手に発散することができないため、レクリエーションでの楽しみがストレス発散に繋がると良いと考える。まずはレクリエーション活動を重ね、自分のやりたいことや好きなことをから言葉にしていけたら良いと思い、レクリエーションの実施に至る。

### ＜プログラムの評価・分析とその根拠＞

【評価】非常によい、今後も継続して実施していく。

自ら気持ちを発信することが苦手なAさんだが、レクリエーション中は笑顔が多く、表情よく、興味がある活動と共通の話題があることで自ら言葉を発すること少しずつ増えてきた。レジンアート作りを通し、活動中のみを楽しむだけでなく、自分で作ったものを地域のイベントや通販アプリで売ってみたいと新しい希望が本人から言葉として出てきた。自ら休憩時間に活動をやりたいという気持ちを発信することはまだできないが、レクリエーションを継続して実施し、職員の関わり方も工夫しながら、本人から希望することが言えるようになるとよいと考える。

不調により休みが続いていたメンバーもいたが、レクリエーション活動があることによって通所するきっかけになった人もいたことや、休憩時間が充実したメンバーもいるため今後も継続していく。

### ＜困難に思う事・アドバイスを受けたい事＞

- ・休憩時間を活用した活動は現在、職員とメンバーと一緒に参加をしているが、休憩時間の確保や午後の活動の準備などで十分な時間の確保が難しい状況にある。
- ・就労支援施設のため“楽しみ”がありすぎると、事業所に対して慣れていない新規利用者が職場として事業所を利用することに戸惑いを感じている。